

研究発表「備北地域の旧石器時代遺跡」

埋蔵文化財調査室 調査研究員 辻 満久

研究発表という仰々しいタイトルになっているのですが、事業団が今まで備北地域で、多数の発掘調査をしております。特に近年では尾道松江線の関係で、いろいろな時代の遺跡を調査しています。その中で、旧石器時代に関する遺跡がかなりまとまって発掘調査されました。それと先ほど青山から発表があった只野原3号遺跡の発掘調査報告書を作成しております。その関係で、備北地



域の旧石器時代の遺跡を眺める機会がありました。まだ作成している最中ですが、考えていることを皆様にお話できればと思います。

話の順序としては、備北地域の遺跡の実情、それからかかすことができない、先ほどから盛んに話が出ております火山灰のことですね。年代を決める、かなり重要な要素になってくる火山灰、それと、その後で個々の遺跡の事例について、特に出土品と、それがどこの層から出てきたのか。

旧石器時代の遺跡は、日本の場合は、そのほとんどが石器しか出てきません。それ以外のものは、条件がよければ骨器とか木といった有機物が残っています。現状では、衣食住などの人の生活の基礎となる手がかりが非常に少ないのです。

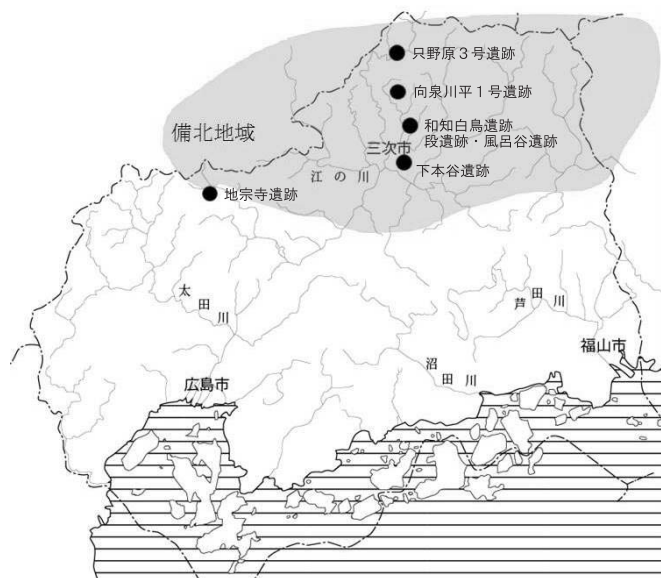
そうは言っても、石器がある程度のまとまりを持って出てまいります。そういうまとまりをブロックとか、あるいはユニットとか呼んでいます。私は、このブロックやユニットの石器の石材の構成比を少し調べてみました。

最後に、備北地域の旧石器時代でどのようなことがわかってきたのかというところ

まで、辿りつければいいかなと思っています。

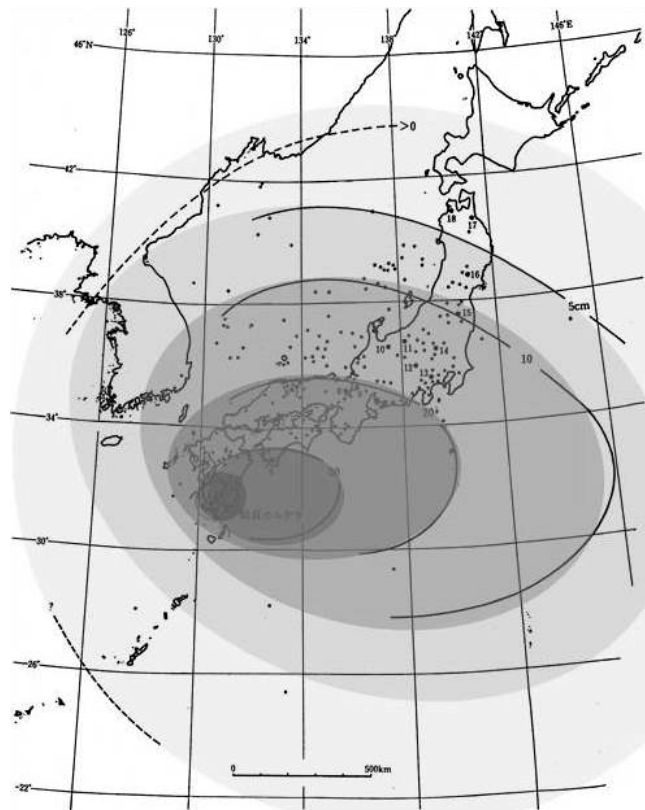
早速、スライドの方に入ろうかと思っています。

ここのグリーンで示した部分【スライド1】が、とりあえず備北地域です。具体的には三次市と庄原市を中心とした地域をここでは呼んでいます。



【スライド1】遺跡の位置図

御紹介する遺跡は、黒丸がありますけれども、一番北から先ほど報告があった只野原3号遺跡。その下に口和町にあります向泉川平1号遺跡。さらに南側のこのあたりに、冒頭で報告がありました和知白鳥遺跡をはじめとして、段遺跡、今回ちょっと報告ができなかったのですが、風呂谷遺跡があります。それ以外にも、三次では割とまとまって報告されているのに下本谷遺跡があります。また、同じ江の川水系ということで、



【スライド2】始良火山灰の降下範囲

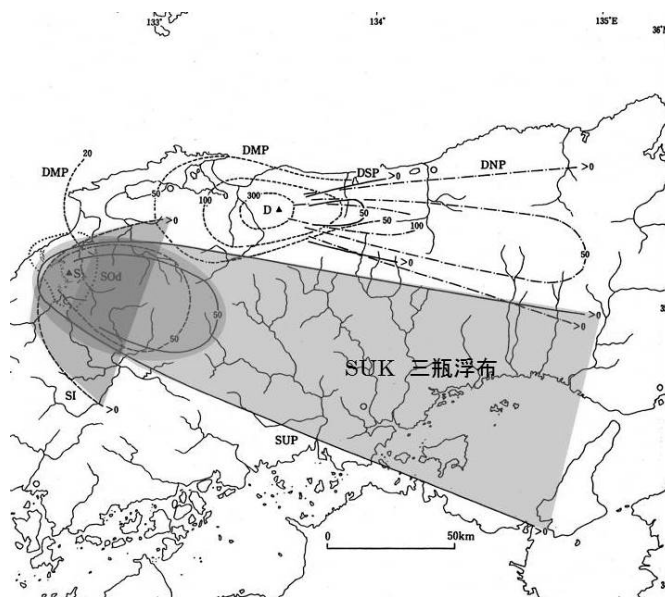
少し離れるのですが、北広島町（旧大朝町）の新庄というところに、地宗寺遺跡という遺跡があります。ここでは、昭和50年代後半以降に調査された遺跡のうち、主な遺跡6箇所を中心にして、紹介させていただければと思います。

その前に、火山灰の話をちょっとだけ、これは日本の地図【スライド2】です。今

までもATという言葉がよく出てきますけれども、鹿児島県の錦江湾付近に、始良カルデラという火山がありまして、現在の桜島とは中心がちょっと違うのですけれども、今から2万6,000年から2万9,000年前に爆発しまして、この色の濃さに大体したがいまして、火山灰が分布しております。広島の場合は、このあたりにありますので条件のいいところでは、大体厚さ20cm前後で分布しているということになります。

このように比較的広く、日本全国に散らばっているような火山灰（広域火山灰）と、それから中国地方特有の火山から噴出してできた火山灰があります。中国地方の火山というと、三瓶山と大山の2つがありますが、大山の方は、広島にはほとんど関係ないので、ここでは比較的近い三瓶山の状態について話をします。

三瓶山は、10万年前くらいに誕生した比較的新しい火山だそうです。旧石器時代に関わるものとしては、三瓶池田火山灰【スライド3】という、大体5万年前後くらいに噴火した火山灰が一つあります。それと、もう少し新しくなりまして、1万7,8千年から2万年くらい前と言われているけれど

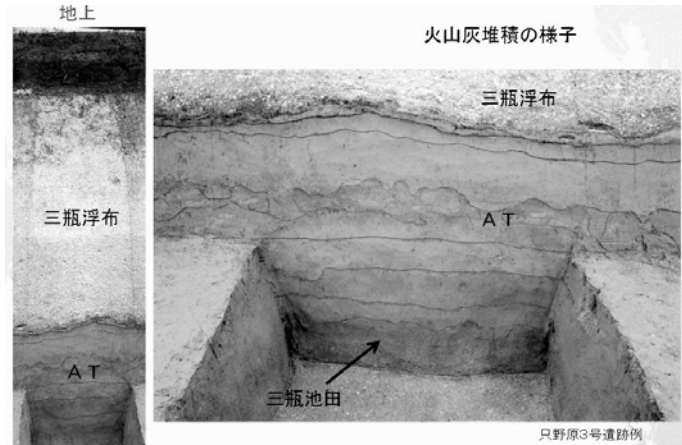


【スライド3】三瓶火山灰の降下範囲

ども、三瓶浮布という火山灰があります。この2つの火山灰が主な火山灰でして、そのちょうどクロスする地域が備北地域にあたります。三次がここなので、このあたりのちょうど調査した遺跡のほとんどが該当しております。その堆積状況の例を次に見ていただきます。

これがその実際の堆積の状態【スライド4】です。まず一番上は皆さんが今現在、生活しているところです。この生活面の下に黒い土壌があって、そこからずっとこれが火山灰、三瓶浮布という火山灰ですけれども、その三瓶浮布の下に、先ほどから出

ておりますA Tがあります。それを拡大したのが、右の写真です。浮布があって、ここに明るい黄色の層があるのがわかると思いますけれども、これがA Tです。このさらに下に、同じような黄色の層があります。これが、三瓶池田という火山灰です。



【スライド4】火山灰堆積の様子

旧石器時代のものは、ほとんどがA Tのある層の上下ですね。この三瓶浮布とA Tの間、もしくは、A Tと三瓶池田の間くらいから出てきます。

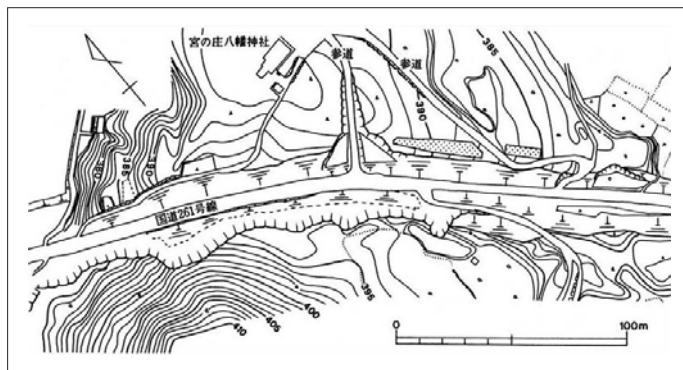
普通、土壌が堆積すると、下のものが古くて、上のものが新しいので、出てきたものが、どの位置で出てくるかで、より新しい、より古い（相対的）ということがわかります。このように相対的ですが、出土遺物（石器）についてある程度の年代をおさえることができます。



【スライド5】地宗寺遺跡位置図

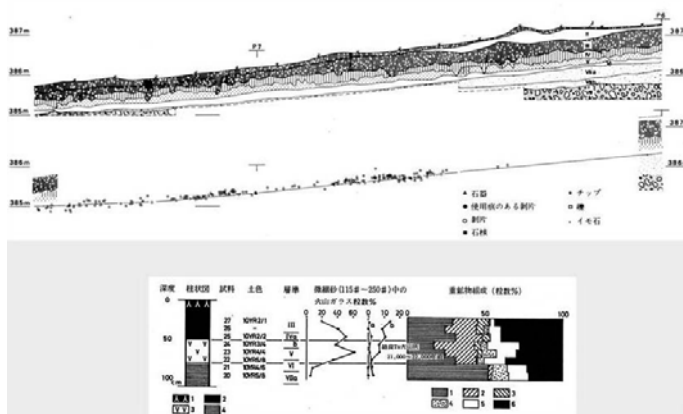
では次に個々の遺跡について見ていきます。まずは、北広島町の地宗寺遺跡からお話しします。地宗寺遺跡【スライド5】は、地形的には、ここに江の川の本流である可愛川が西から東にゆるく蛇行しながら流れていて、ここのちょうど台地上に位置します。周りには、これ以外にも横断道浜田線のインターチェンジ近く（岡の段A～C地点遺跡）とか、向いの丘陵（横路遺跡）に、弥生時代の前期から後半くらいの遺跡が割と密集してあるような、そういう場所になります。

道路の拡幅に伴いまして、この部分【スライド6】の調査をしています。実際は、この道路を造る事に関連しまして、縄文時代相当の遺物が以前から表採されているということで、ここを発掘調査しました。



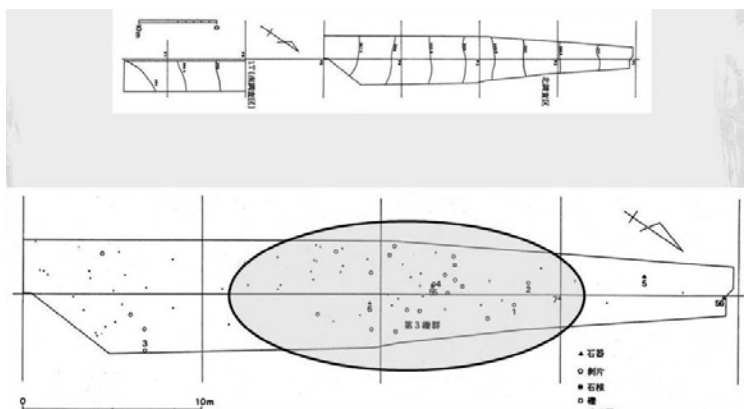
【スライド6】地宗寺遺跡周辺地形図

これは、調査したときの地層の状態【スライド7】です。この第5層という層があるのですが、すごく薄いこの層ですね。ここに第5層があって、遺物は、その下の第6層から出ているという



【スライド7】地宗寺遺跡の土層断面図

ことです。この第5層に、ATがあるというのがわかりまして、比較的早い時期からATの下から石器が出ているというのがわかった遺跡の一つです。



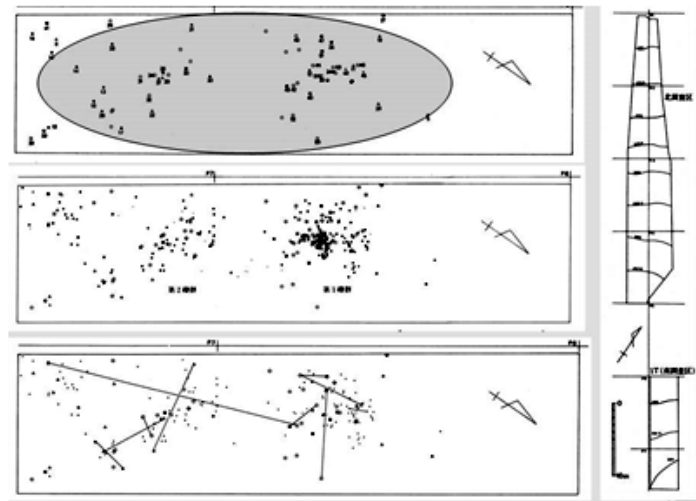
【スライド8】地宗寺遺跡石器の出土分布図(1)

これが調査区の状態【スライド8上】です。北側の調査区と南側の調査区の2つに分かれております。北側の調査区の石器の分布状態【スライド8下】を見ると、こういう非常に疎らなのですが、こういうまとまりができます。

次は、反対の南側についてです。南側の調査区の状態【スライド9】はこういう感

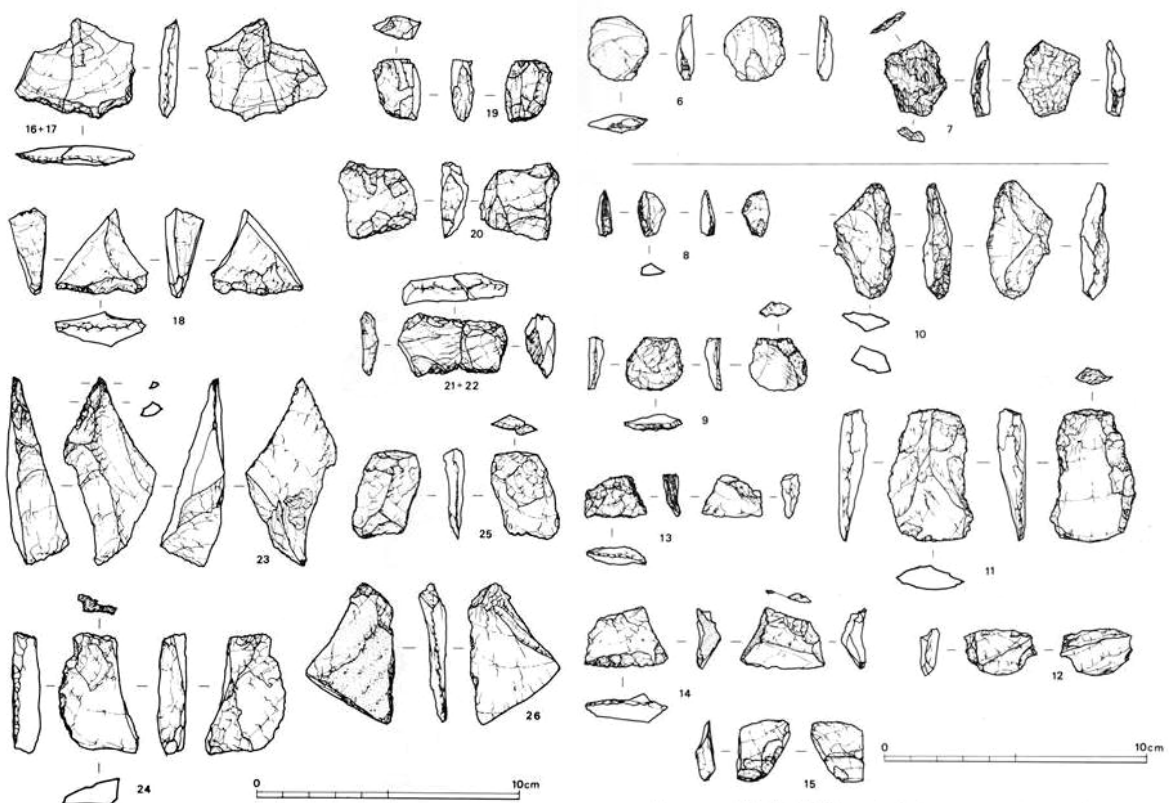
じです。これは、出てきた石器の全点の図【スライド9中】です。次が石器だけの図

(スライド9上)です。石器だけの状態を見ると、大体このような塊というか、くくりができます。それを裏づけるように、フィッティング=接合関係をみると、一応この枠くらいの中に収まっていて、一つの石器群(ブロック)として考えるこ



【スライド9】寺宗地遺跡石器出土分布図(2)

とができます。これは、そこから出てきた石器【スライド10】です。大体、スクレイパーとか、楔形石器、こういうものですね。それから、ここに先端が尖がった錐状の石器があります。これらに混じって、小さいナイフ形石器が出ております。すごく小

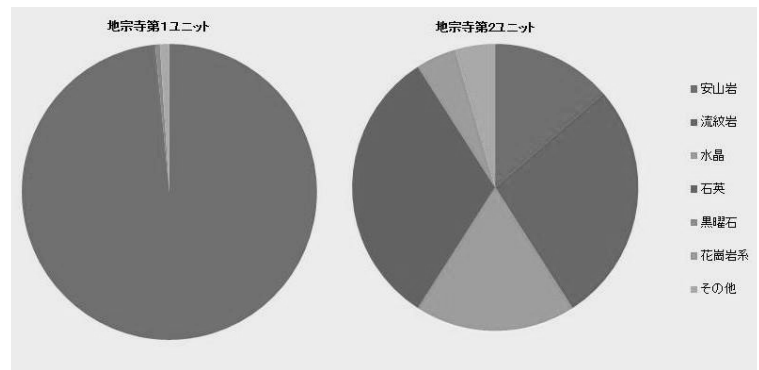


第13図 ユニット1石器実測図(スクレイパー、ピエスエスキース及び使用痕のある剥片類)(2:3)

第12図 ユニット1及び2石器実測図(ナイフ形石器、スクレイパー類)(2:3)

【スライド10】地宗寺遺跡出土石器実測図

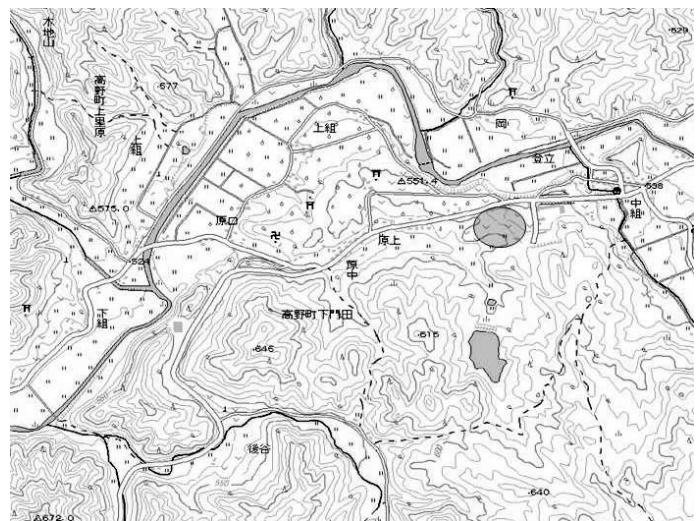
さいです。今の一つのまとまりの中の石器の石材の組成【スライド11】を見てみると、最初に見ていただいたのが、第2ユニットになりますけれども、第2ユニットのほうは、



【スライド11】地宗寺遺跡石器石材構成表

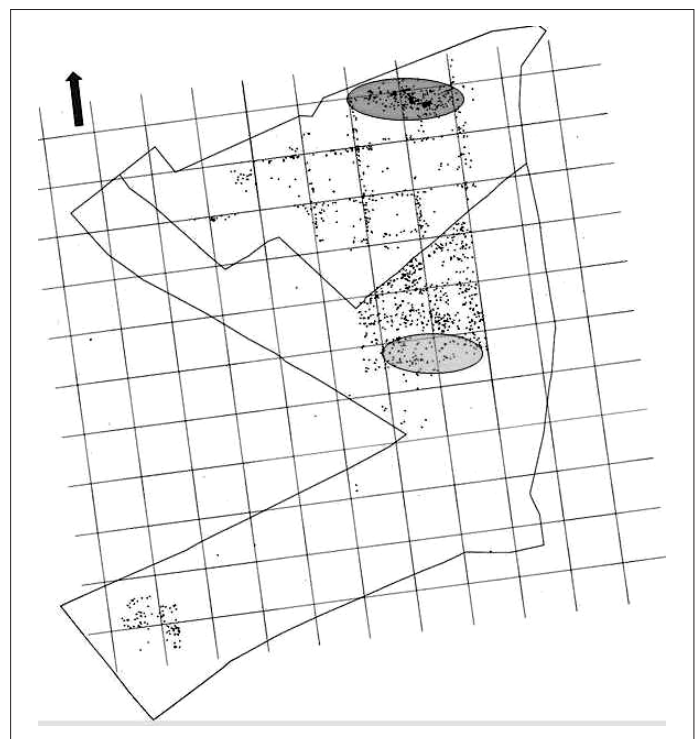
結構石材にばらつきがあって、いろんな石材で石器群が構成されています。次に見ていただいた第1ユニットのほうは、ほとんどが安山岩で構成されてます。

ここに、石器群の中の石材だけ見ていくと、かなりの差があるのがわかるかと思います。



【スライド12】只野原3号遺跡位置図

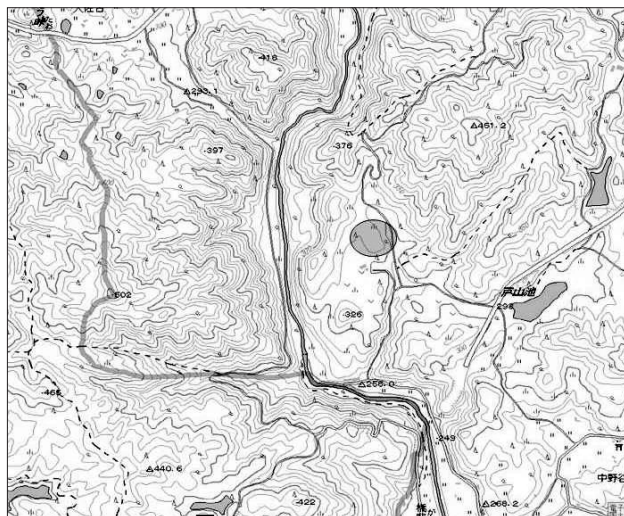
次は、只野原遺跡【スライド12】で、これは先ほど説明されておりましたが、これが全部の出土遺物【スライド13】分布です。これが、文化層2から出てきた遺物で、わりと集中して出てきているというのは、この辺になります。その下文化層3で、配石とかが出てくるのは、このあたりになります。



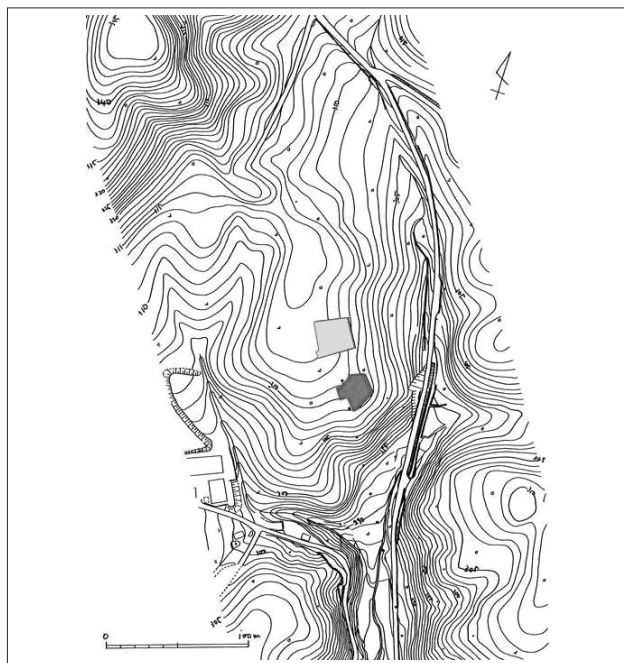
【スライド13】只野原3号遺跡石器分布図

次は、向泉川平1号遺跡【スライド14】という遺跡です。これは、

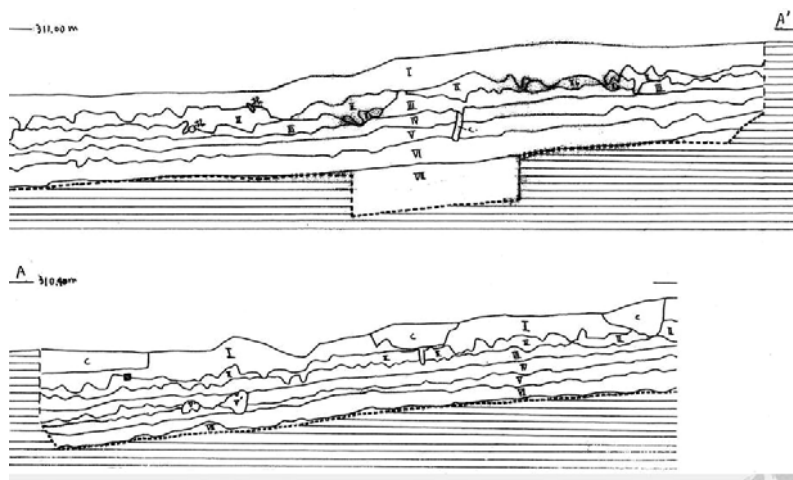
庄原市口和町にありまして，これも台地の平坦部があって，そこからちょっと落ちるところ，この赤い印のところなのですけれども，ここに1号遺跡【スライド15】があります。その隣が，2号遺跡で弥生時代頃の住居跡が見つかった遺跡です。1号遺跡を掘っていくと，ここに断面図【スライド16】を載せたのですけれども，この層の分析の結果，ATがあるというのが確認されています。石器はこのATのある層の下と上の方から出ています。



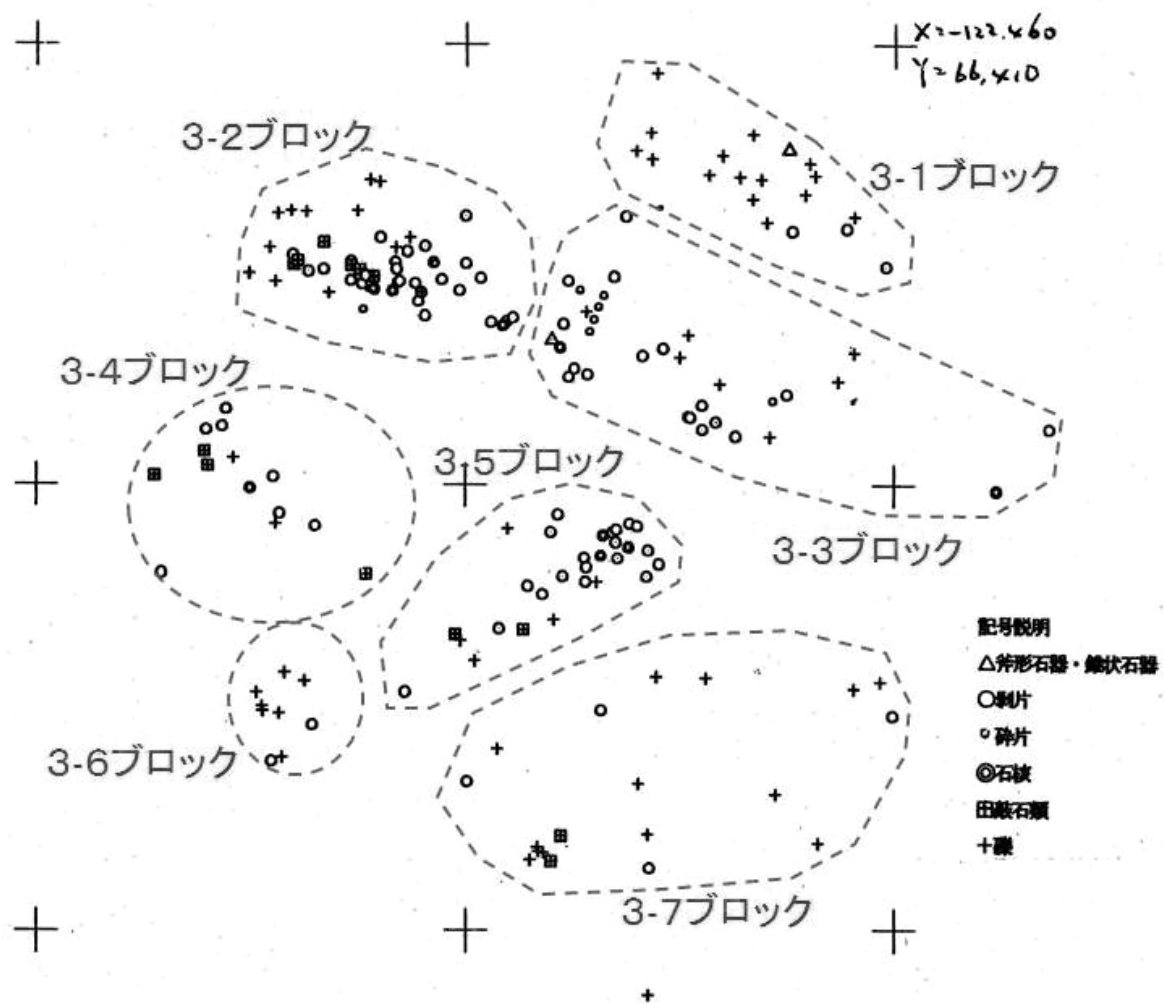
【スライド14】向泉川平1号遺跡位置図



【スライド15】向泉川平1号遺跡位置図



【スライド16】向泉川平1号遺跡土層断面図



【スライド17】向泉川平1号遺跡石材別分布図

ただし、ATの上から出ている出土遺物というのは、点数が少なかったので、今回分析の対象にはできませんでした。ATの下から出てきたものだけ分析しました。

これは、出てきたものの全点図【スライド17】です。大まかなくくりで、1から7と括っております。これは出てきたもの【スライド18】です。石器らしいものは出ていないのですが、これが斧形石器と、それからここに、これも先



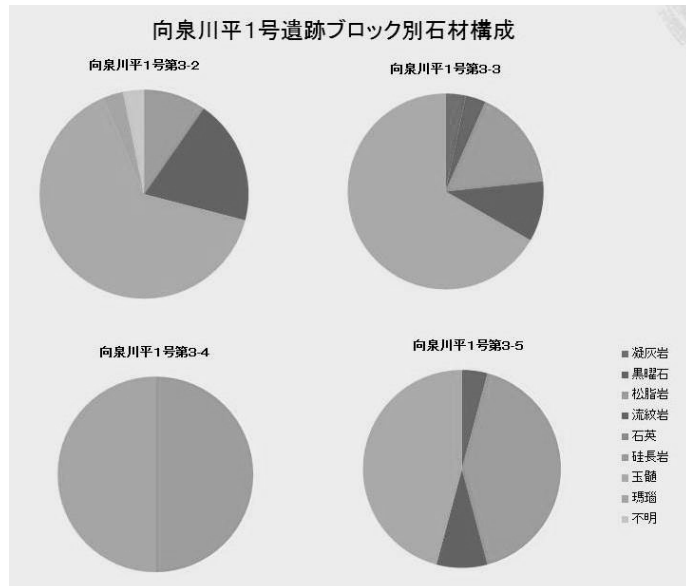
【スライド18】向泉川平1号出土石器実測図

が尖がっていますけれども、こういう錐形の石器が出ています。そのほかに、刃先を加工したスクレイパーと呼ばれるような石器が出ており、ここから下の分は、いわゆる剥片です。

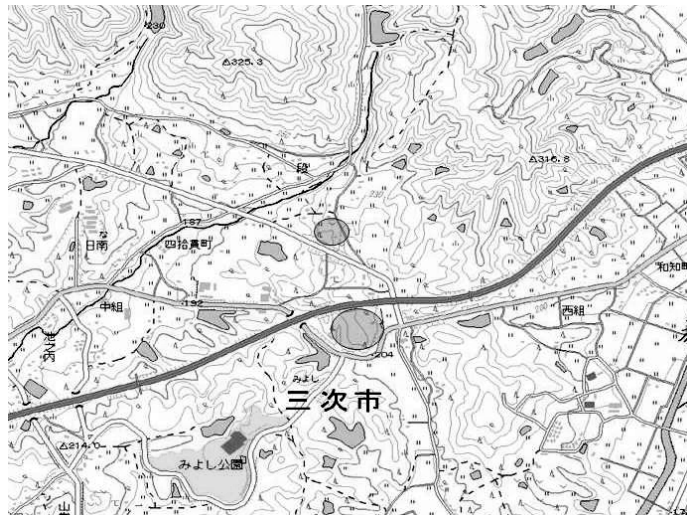
次に石材別に分類して、ブロック別にする【スライド19】と、こういう感じになりました。分けてみると、向泉川平1号遺跡のブロック別の石材の構成としては、ここの特徴としては、玉髓が非常に多いことです。その他に、松脂岩、これは黒曜石にすごく似た石です。松脂岩や、流紋岩が加わるというような構成になっております。ちょっと、第4ブロックだけ、

点数が少ないので、こういう形になったのだろーと思えますけれども、玉髓が多い構成になっているというのを記憶に留めておいてください。

次は、かなり遺跡が集中しております段遺跡や和知白鳥遺跡がある周辺【スライド20】です。これが段遺跡で、この台地上にあるのが和知白鳥遺跡になります。和知白鳥遺跡のほうは冒頭で山田から報告しましたので、重複を避けまして、ここでは主に段遺跡【スライド21】のこ



【スライド19】向泉川平1号遺跡石器石材構成表

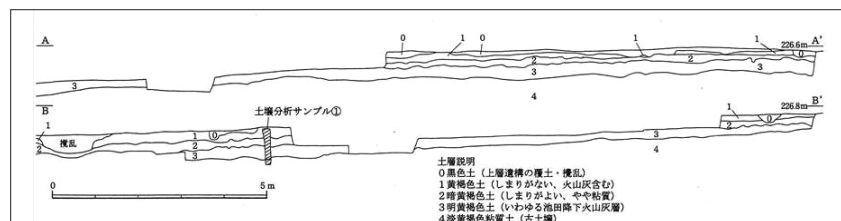


【スライド20】和知白鳥遺跡・段遺跡位置図



【スライド21】段遺跡地形図

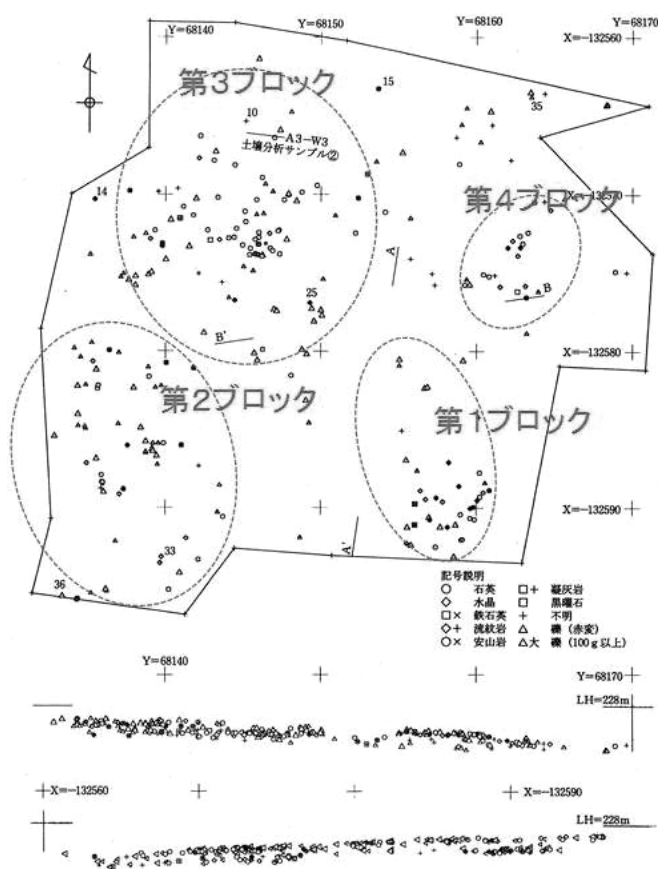
とに触れます。ここが
段遺跡の位置で、現状
は畑です。調査したの
は、台地の中央付近に



【スライド22】段遺跡土層断面

なります。これが、旧石器にかか
わるところの断面図【スライド22】
ですけれども、この1層にATが
検出されておりまして、2層から
遺物が出土しております。この3
層というのが、三瓶池田火山灰に
なります。

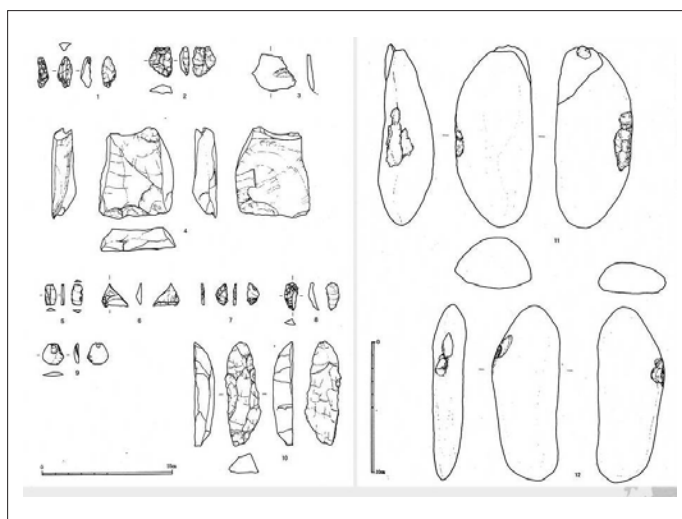
これは、全部の出土状態【スラ
イド23】です。まとめとしては
おおまかですけれども、4つのブ
ロックに分かれています。



【スライド23】段遺跡出土石材別分布図

【スライド24】は出てきたもので
す。ここに、ナイフ形石器があり
ます。これは、楔形石器です。あと、
ここにですね。小片ですけれども、
局部磨製石斧ではないかと思われ
る石器の残片が一つあります。

あとは、斧のような形をしたス
クレイパーや剥片ですね。それか
ら、右の方にあるのはハンマース
トーンです。ここの特徴は棒状の

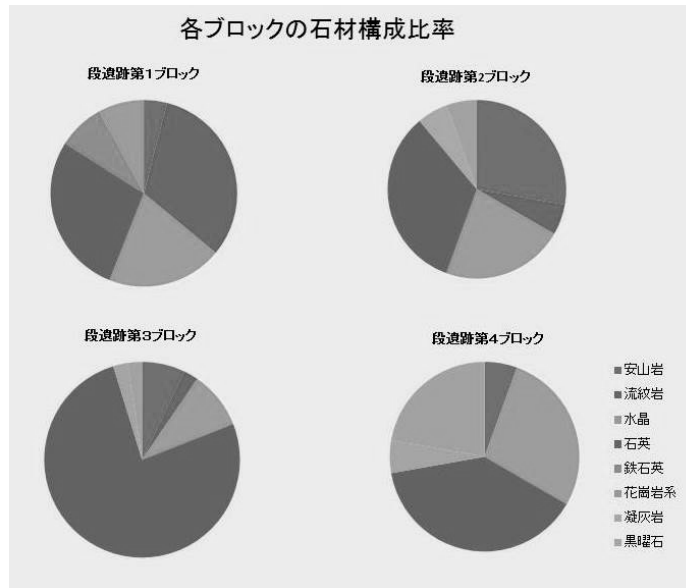


【スライド24】段遺跡出土石器実測図

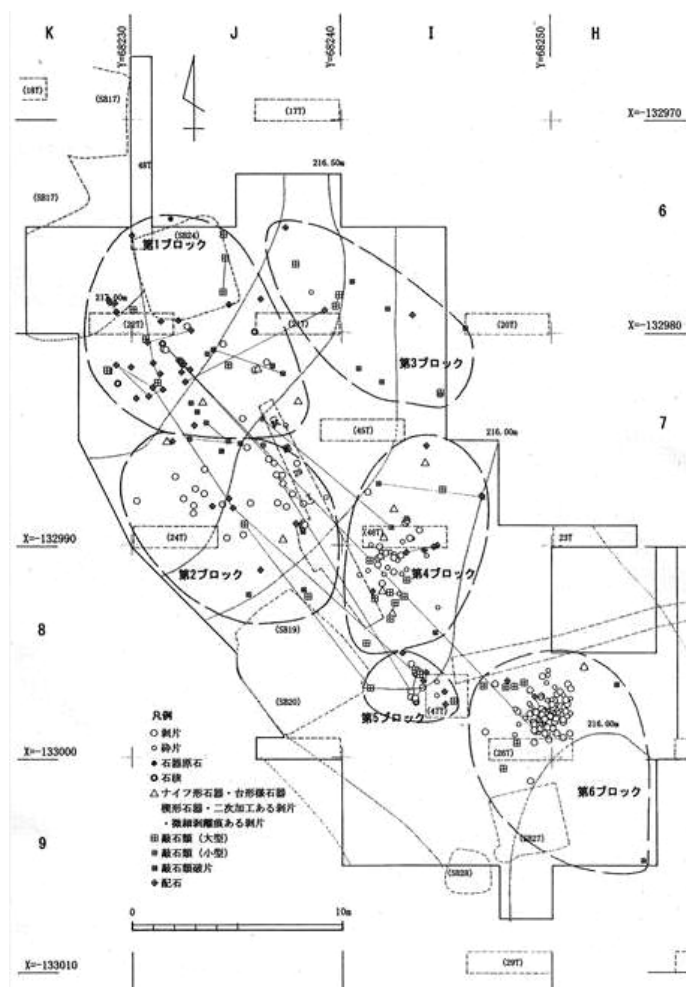
礫の側面部に敲打痕が集中しているというのが特徴です。

余談になりますが、只野原3号で縄文時代の文化層からたくさんのハンマーストーンが出ているという話があったですけれども、その分析をしました。

その敲打されている部分はほとんどが、こういう側面には全然なく、使われているのは、棒状の石材の場合は、この先端部ですね。両側の先端、尖ったほう、短辺側の先端を使っています。おそらくこれは、ハンマーの使い方が縄文時代以降で使うハンマーと使い方に違いがあるのだらうと漠然とは考えているのですが、具体的にどういうふうになるのかというのは、今のところ研究中です。これは、石材の状態と接合状態を示したものの【スライド23】です。概ねブロック内で収まるのことが多いです。2ブロックと3ブロックのところで、若干交錯しますけれども、基本的には同じブロック内で、接合関係も収まっています。これは、各ブロックの石材



【スライド25】段遺跡石器石材構成表

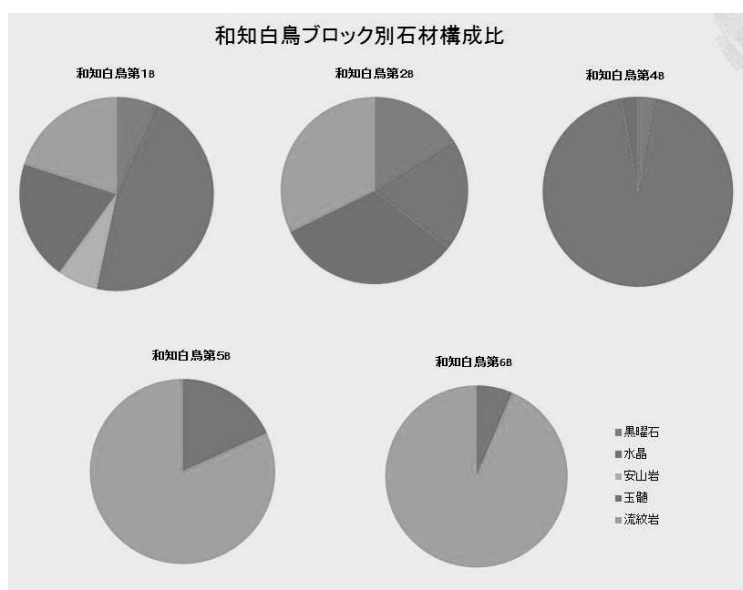


【スライド26】和知白鳥遺跡石器分布図

の構成比【スライド25】で、段遺跡の場合は、流紋岩，それから石英ですね。水晶，石英と水晶というのは，基本的には同じなので，石英で透明なのが水晶です。

ここでも非常に，石英の多いブロックもあります。ただ，ほかのブロックを見ると，特定の石材に偏らずに，いろいろな石材を使っているというような感じを受けます。

これは，和知白鳥遺跡のブロックの状態【スライド26】



【スライド27】和知白鳥遺跡石器石材構成表

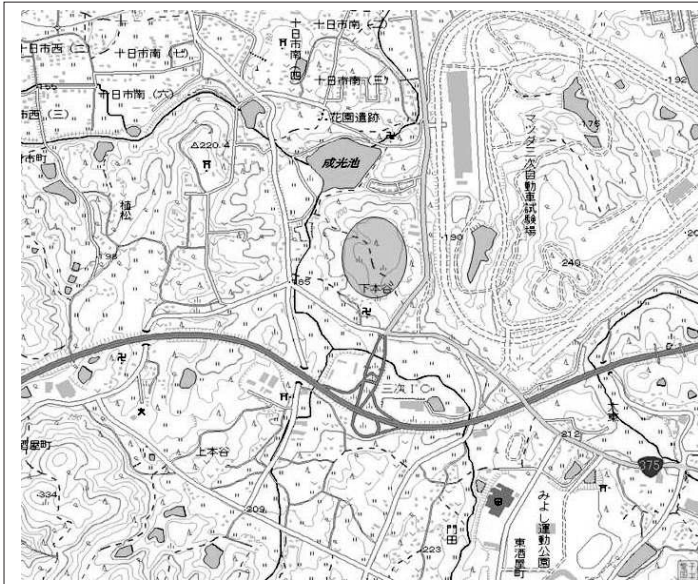
です。先ほどその報告があっ

たと思うので，余り触れませんが，こういう石器のくくりが7箇所あります。特徴としては，ここでもナイフ形石器が出ているのですが，小さいナイフ形石器です。ここに，台形様石器という石器が出ております。再び戻って，このブロック内の石材の構成比【スライド27】を同じように，求めてみました。これで，結構おもしろいのは，5ブロックと6ブロック，それから上のここと言えば，1ブロック，2ブロックの間にかかなり差があるのが出てまいりました。特に，5と6は，ほとんど構成は一緒で，流紋岩が多いことです。

先ほどお話しした，向泉川平1号遺跡でも，玉髄が多いブロックというのが確認されています。可能性の話なんですけれども，向泉川平をつくった人々と，和知白鳥の1Bないしは，2Bをつくった人々は同一のグループとは言いませんけれど，同一の伝統を持つグループのテリトリーの一つに入っているような気がしないではないですが，これは想像の話になります。

次が，下本谷遺跡【スライド28】です。下本谷遺跡は，古代三次郡衙跡として有名ですけれども，旧石器の遺跡としてもかなり著名です。今回は三次市の配水池を造る

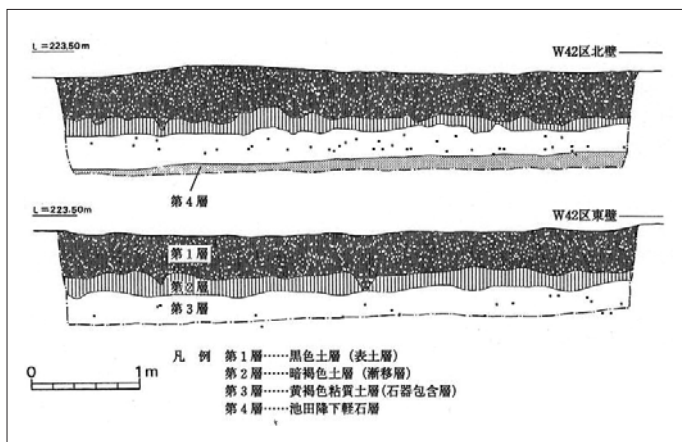
時に調査した地点のことが報告されておりますので、それを中心にお話をします。これが、下本谷の土層断面【スライド30】でして、ここ真ん中から上くらいでA Tが



【スライド28】下本谷遺跡位置図



【スライド29】下本谷遺跡地形図

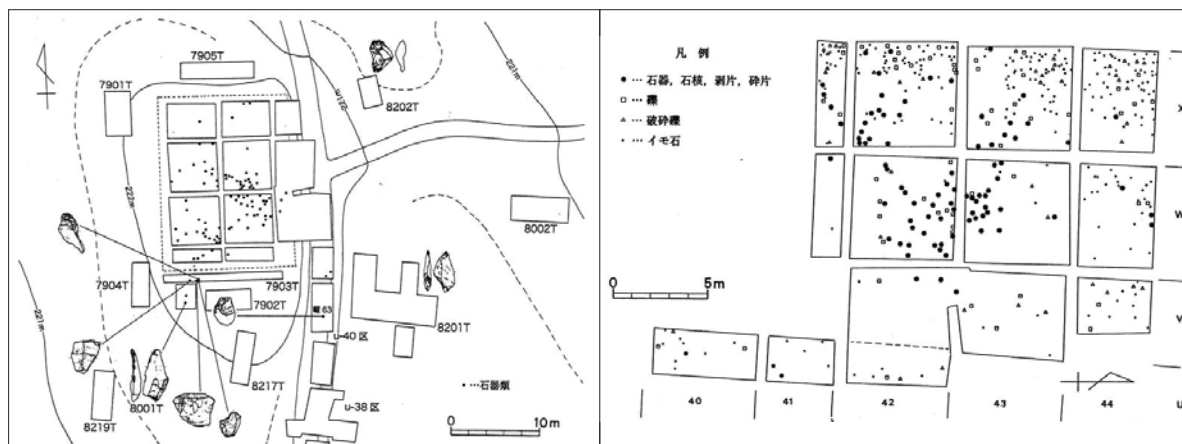


【スライド30】下本谷遺跡土層断面図

確認されております。遺物は真ん中から下にかけて、比較的集中して出土しています。これが、トレンチの状態【スライド31】ですね。トレンチというか、調査区の状態です。少し拡大【スライド32】してみますと、こういうふうになっ

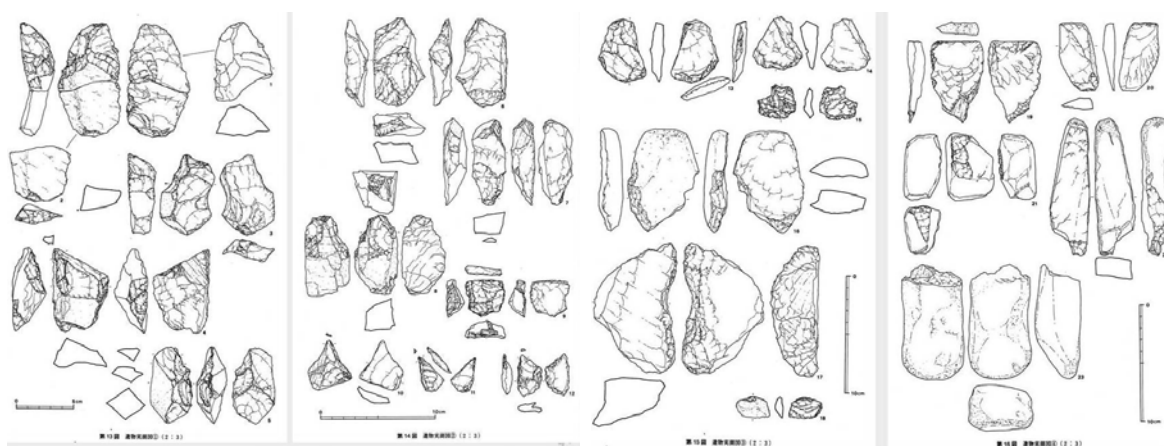
て、わりと万遍なく、調査区内からものが出ております。【スライド31】は、石器だけピックアップした状態です。石器だけピックアップをすると、このあたりにくくりができそうな感じがします。出てきたもの【スライド33】です。出てきたものとしては、ナイフ形石器が出ておりまして、ここに、錐状の石器、この辺にも出ていますね。それとこれが、このあたりがハンマーストーンです。このハンマーストーンは、両端をたたくようなものが主流です。

下本谷遺跡の場合、石材構成は、ほとんどが流紋岩オンリーなので、これが大体、



【スライド31】下本谷遺跡遺物配置図

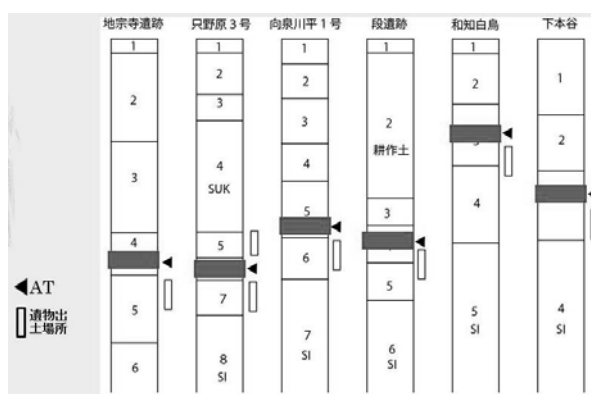
【スライド32】下本谷遺跡石材別分布図置図



【スライド33】下本谷遺跡出土石器実測図

93%くらいが流紋岩です。ほとんど単一であると言っていいと思います。

次は、各遺跡の出てきたところを整理した状態【スライド34】なのですけれども、この赤いのがATです。四角く囲っているのが遺物が出てきたところです。



【スライド34】各遺跡石器出土層位図

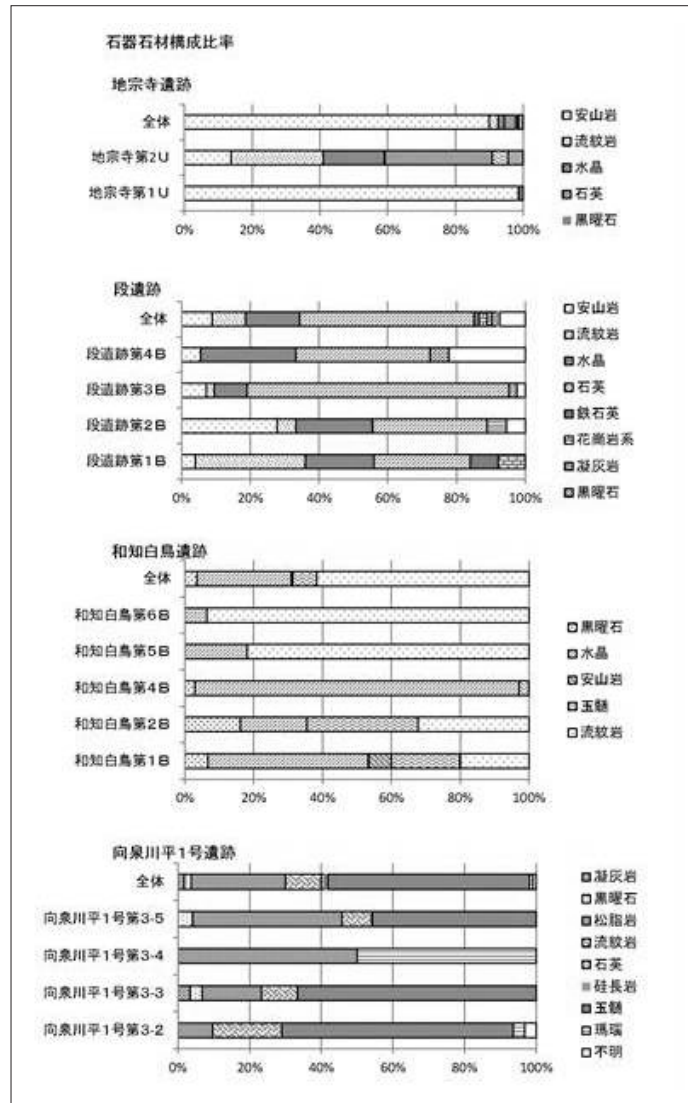
今まで報告した遺跡のほとんどは、ATが

降る以前の遺物です。備北地域には、AT以前の旧石器時代の遺跡が非常に多いというのがわかります。これは、構成比率【スライド35】です。

構成比率も、AT以前の遺跡・場所によって違うのですけれども、①比較的石材が多い遺跡と、②特定の石材に偏るというか、特定の石材が半数以上を占める遺跡に分

かれるのではないかと考えております。

以上で、私の発表は終わりたいと思います。御静聴ありがとうございました。



【スライド35】遺跡毎の石器石材構成比率

出典一覧

スライド1：発表者作成

スライド2：町田洋・新井房夫 1992『火山灰アトラス 日本列島とその周辺』東京大学出版会
図2. 1-6を利用して作成

スライド3：町田洋・新井房夫 1992『火山灰アトラス 日本列島とその周辺』東京大学出版会
図3. 2-1を利用して作成

スライド4：財団法人広島県教育事業団編『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(23) 只野原1号遺跡 只野原2号遺跡 只野原3号遺跡』2013年

スライド5：国土交通省国土地理院発行1：25,000地形図「大朝」より作成

スライド6：広島県教育委員会 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター編『地宗寺遺跡発掘調査報告-国道261号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査-』1982年 の第3図より作成

スライド7：広島県教育委員会 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター編『地宗寺遺跡発掘調査報告-国道261号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査-』1982年 の第7図及び凡例より作成

スライド8：広島県教育委員会 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター編『地宗寺遺跡発掘調査報告-国道261号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査-』1982年 の第6図及び第10図

より作成

スライド9：広島県教育委員会 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター編『地宗寺遺跡発掘調査報告―国道261号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査―』1982年 の第7図及び第8図より作成

スライド10：広島県教育委員会 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター編『地宗寺遺跡発掘調査報告―国道261号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査―』1982年 の第12図及び第13図より作成

スライド11：発表者作成

スライド12：国土交通省国土地理院発行 1：25,000地形図「頓原・比婆新市」より作成

スライド13：発表者作成

スライド14：国土交通省国土地理院発行 1：25,000地形図「永田」より作成

スライド15：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（25）向泉川平1号遺跡 向泉川平2号遺跡』2013年 第Ⅲ-2図より作成

スライド16：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（25）向泉川平1号遺跡 向泉川平2号遺跡』2013年 第Ⅲ-4図より作成

スライド17：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（25）向泉川平1号遺跡 向泉川平2号遺跡』2013年 第Ⅲ-34図を修正して作成

スライド18：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（23）只野原1号遺跡 只野原2号遺跡 只野原3号遺跡』2013年 第Ⅲ-47図を修正して作成

スライド19：発表者が作成

スライド20：国土交通省国土地理院発行 1：25,000地形図「三良坂」より作成

スライド21：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（20）段遺跡』2012年 の第3図より作成

スライド22：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（20）段遺跡』2012年 の第7図より作成

スライド23：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（20）段遺跡』2012年 の第13図及び第14図より作成

スライド24：発表者が作成

スライド25：発表者が作成

スライド26：財団法人広島県教育事業団『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（15）和知白鳥遺跡1（旧石器時代の調査）』2011年 の第27図より作成

スライド27：発表者が作成

スライド28：国土交通省国土地理院発行 1：25,000地形図「三次・三良坂」より作成

スライド29：三次旧石器文化研究会『下本谷遺跡の基礎的研究―三次市西酒屋配水池建設に伴う旧石器時代遺跡の調査から―』2007年 の第2図より作成

スライド30：三次旧石器文化研究会『下本谷遺跡の基礎的研究―三次市西酒屋配水池建設に伴う旧石器時代遺跡の調査から―』2007年 の第4図より作成

スライド31：三次旧石器文化研究会『下本谷遺跡の基礎的研究―三次市西酒屋配水池建設に伴う旧石器時代遺跡の調査から―』2007年 の第4図より作成

スライド32：三次旧石器文化研究会『下本谷遺跡の基礎的研究―三次市西酒屋配水池建設に伴う旧石器時代遺跡の調査から―』2007年 の第5図より作成

スライド33：三次旧石器文化研究会『下本谷遺跡の基礎的研究―三次市西酒屋配水池建設に伴う旧石器時代遺跡の調査から―』2007年 の第13図～16図より作成

スライド34：発表者が作成

スライド35：発表者が作成